

## 経済レポート

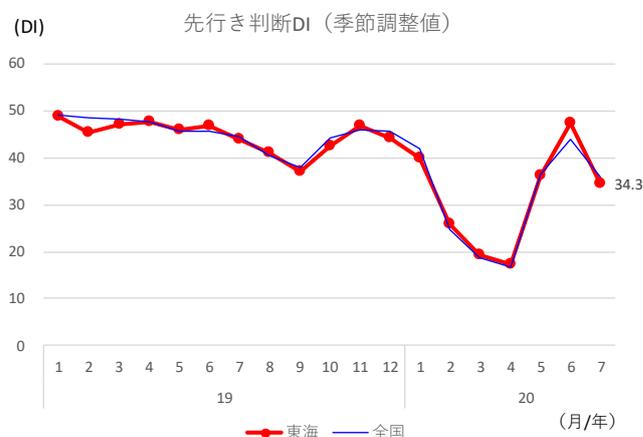
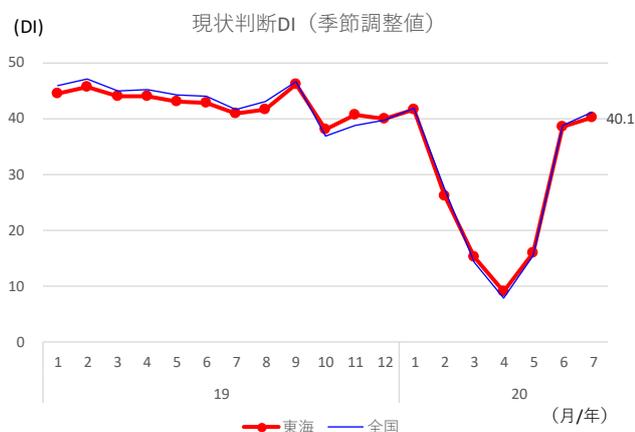
# 景気ウォッチャー調査(東海地区:2020年7月)

～ 新型コロナウイルス感染再拡大で先行き判断が再び低下 ～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 8月11日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の7月<sup>1</sup>の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差+1.5ポイントの40.1と3ヵ月連続で上昇した。  
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差-13.1ポイントの34.3と3ヵ月ぶりに低下した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

**新型コロナウイルス感染再拡大により、景況感の改善ペースが鈍化している。先行きについても、感染再拡大への懸念から改善期待が低下している。**

とまとめた。

(前月のまとめ)

「コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況が続いているが、景況感は大きく改善している。先行きについては、感染再拡大への懸念は残るものの改善が見込まれている。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

**新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさは残るものの、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、持ち直しへの期待がみられるものの、感染症の動向に対する懸念が強まっている。**

とまとめている。

(前月のまとめ)

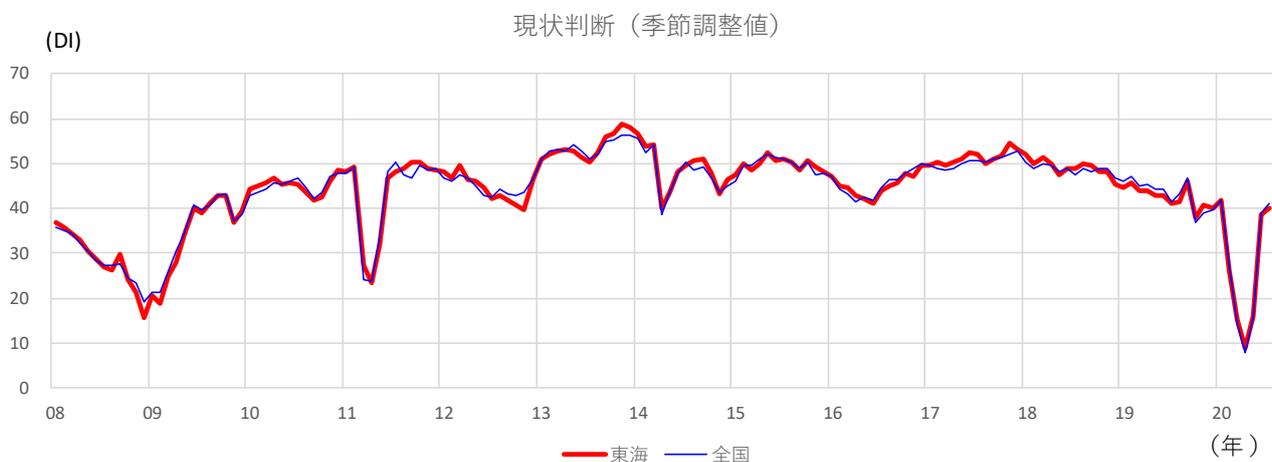
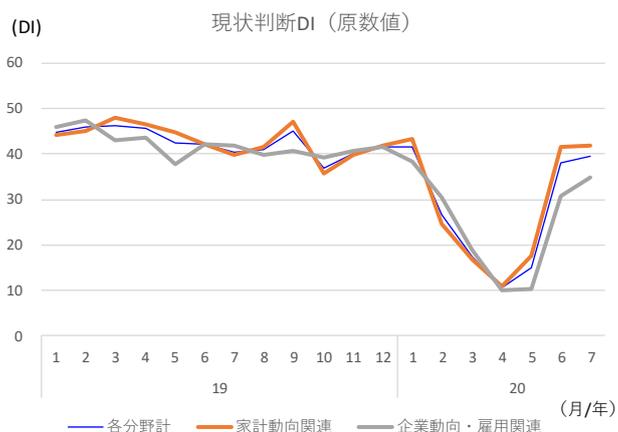
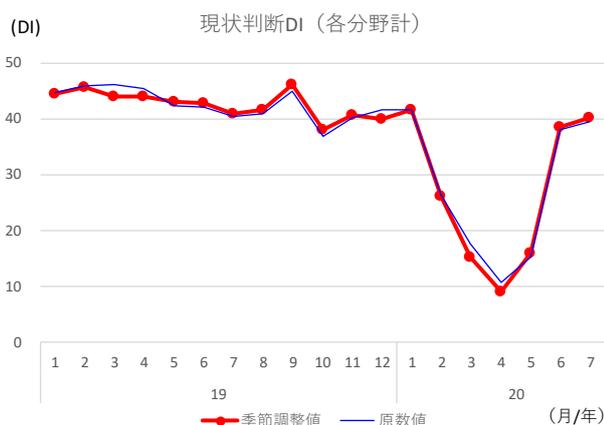
「新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさは残るものの、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、感染症の動向を懸念しつつも、持ち直しが続くともみている。」

<sup>1</sup> 調査期間は毎月25日～月末

## 1. 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

### (1) DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI<sup>2</sup> (季節調整値)は、前月差+1.5ポイントの40.1と3ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を28ヶ月連続で下回った。前月に比べ改善幅は大きく縮小。3ヶ月前(4月)と比べると状況は改善しているものの、7月に入ってからの新型コロナウイルス感染再拡大が景況感を下押ししている。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同+0.2ポイントの41.8と3ヶ月連続で小幅上昇したが、横ばいを示す50を27ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDI<sup>3</sup>は、同+4.1ポイントの34.9と3ヶ月連続で上昇となったが、上昇幅は縮小し、横ばいを示す50を20ヶ月連続で下回った。



<sup>2</sup> 本調査のアンケート・サンプル総数は230、うち家計関連152、企業・雇用関連78。以下、先行き判断についても同様。

<sup>3</sup> 企業動向関連と雇用関連からなるDI (原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

## (2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

### 【家計動向関連】

- ▶ 3ヵ月前(4月)は緊急事態宣言下であったため、それに比べれば改善している。改善には、各種対策が効いている面もあるようだ。

◎	百貨店(計画担当)	・新型コロナウイルス禍のどん底の頃に比べると、来客数も買上状況も平常時まではいかないが回復してきている。
○	家電量販店(店員)	・新型コロナウイルス対策の給付金がほぼ給付完了されてきて、この際にリモートワークに必要なPCを買換えたり、新しくエアコン、冷蔵庫や洗濯機を設置したり、買換え時期ではない需要があり前月に続き数値は良くなっている。
○	旅行代理店(営業担当)	・規模は大きくないが地方自治体のキャンペーンや助成金により、売上に多少効果がみられた。前年比としてはまだ1~2割程度である。団体旅行はまだ全く回復の兆しはない。

- ▶ 新型コロナウイルス感染第2波により、足下で再び悪化してきているとの声が散見される。

□	スーパー(販売担当)	・食品、生活必需品の動きは、必要とされている商品を中心に変わらず売れている。日焼け止めのような外出に使用される商品の動向は20%減になるなど、ばらつきがある。
□	コンビニ(エリア担当)	・緊急事態宣言解除後は堅調に売上が回復傾向であったが、今月に入り来客数が減少した。長雨による気温の低下で夏季商材が売れにくく、新型コロナウイルス感染者の増加による出控え傾向も前月より高まった。4月と比較すると全体の実績は良いが、動きは良い方向に向いているといえない。
□	乗用車販売店(経営者)	・4~5月に比べると良くなっているが、新型コロナウイルスの感染の広がりとともに急速に客足が落ちている。
▲	百貨店(販売担当)	・新型コロナウイルスも少し落ち着きをみせた月前半は、来客数も徐々に戻り始め需要の高まりを感じられた。しかし後半からは第2波と思われる状況になり、来客数の激減とともに売上も減少した。厳しい状態に戻ってしまった。
×	商店街(代表者)	・客の動きからも新型コロナウイルスの第2波が来ているように見受けられる。
×	百貨店(業績管理担当)	・新型コロナウイルスの影響がぶり返し、売上は苦戦している。食品催事を計画していたが、中止する方向で検討を始めている。長雨や豪雨の影響もあり、来客数が落ちている。

### 【企業動向・雇用関連】

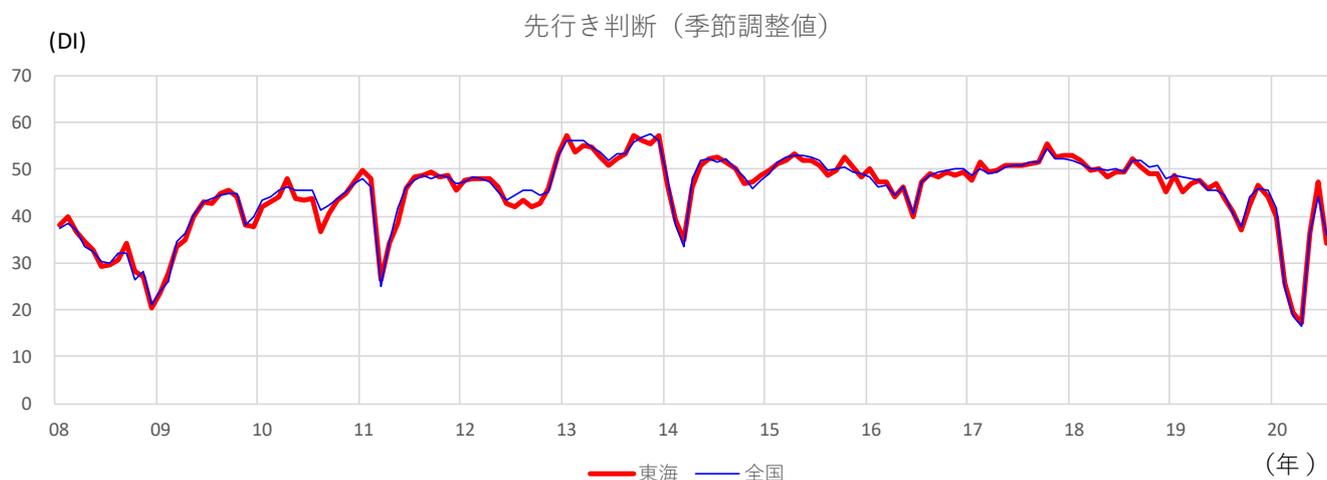
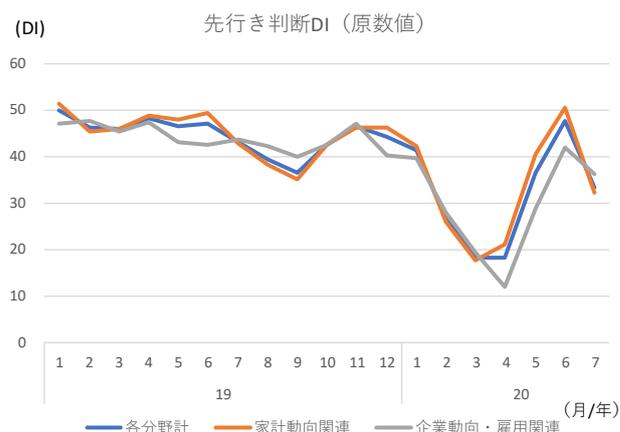
- ▶ 厳しい状態が変わらず続いているとの声が多い。

□	一般機械器具製造業(営業担当)	・主要市場である北米では、まだ新型コロナウイルスの感染が拡大しており、設備投資どころではないという雰囲気である。新たな移動制限が始まっており代理店が客先を訪問できず、客先の動向もつかめない。
□	輸送用機械器具製造業(総務経理担当)	・5~6月に比べると7月は良くなってきたが、生産量が多少戻ってきたということであり、4月と同じ程度の売上である。
□	輸送業(従業員)	・仕事量が減った4月の状況と、この7月の状況は同じくらいである。5月が特に受注量が減ったことで売上が大きく落ち、6月は若干だが5月よりは回復した。7月には当初は前年並みに回復しそうな気配だったが、やはりまだまだ新型コロナウイルスの影響は続いており、予定どおりにはなっていない。
×	輸送用機械器具製造業(経営者)	・営業的に国内の客先訪問も禁止されているところが多く、新規の案件について検討することすらままならない。電話やメールだけでは詳細な話が進まない。客先でも中国工場へは渡航することができないので、生産計画も立たず難しい状況である。
×	職業安定所(次長)	・新型コロナウイルス関連による雇止めに伴い、雇用保険受給決定者数が増加している。

## 2. 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

### （1）DIの動向

- 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計：季節調整値）は、前月差-13.1ポイントの34.3と大幅に低下し、横ばいを示す50を22ヶ月連続で下回った。新型コロナウイルス感染再拡大により、前月の急上昇から一転低下となった。
- 部門別に見ると（原数値）、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同-18.5ポイントの32.1と4ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を2ヶ月ぶりに下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同-5.8ポイントの36.2と3ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を22ヶ月連続で下回った。



## (2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

**【家計動向関連】**

▶ 新型コロナウイルス感染再拡大により、先行きの悪化を見込む回答が増えた。

▲	百貨店 (総務担当)	・感染の再拡大等により客足が鈍っている。また、お盆の帰省等の客による土産等の購入も少なくなる可能性が高く、売上にとっても、大変厳しい状況である。
▲	コンビニ (企画担当)	・新型コロナウイルスは感染拡大傾向にあり、再び外出自粛の状況になれば、4～5月の状態に戻る可能性がある。
▲	乗用車販売店 (営業担当)	・来店客の雰囲気から悪い話はなく、販売量も戻り回復傾向に感じていた矢先、連日の全国的な新型コロナウイルス感染者数増加に、先行きの不安を感じている。感染者がこのまま増加するようなら、逆戻りするのではないかと思う。
×	百貨店 (計画担当)	・ここ最近になって新型コロナウイルスの感染者数が急増し、来客数が急減しており、この状況が更に続いていくと考えられる。
×	衣料品専門店 (売場担当)	・7月に入り県内における新型コロナウイルスの感染者が急増しており、春先の緊急事態宣言時よりも消費者の不安感が増しているように思われる。
×	乗用車販売店 (従業員)	・新型コロナウイルス感染拡大に伴い客の新車購買意欲の減退は進み、さらに、多くの客から収入が減っているのでは今車どころではないという声を聞く。客の店舗への誘導もなかなか難しい状況がまだまだ続くと考えられるので、厳しい状況にあると考える。
×	旅行代理店 (営業担当)	・新型コロナウイルス第2波が完全にやってきた今、Go To Travelキャンペーン等で申込みを頂いた旅行予約や静観中だった秋口の団体旅行も軒並み再取消しが発生している。4～5月の前年比マイナス97%に匹敵する減少率が旅行業界に再び襲ってくるのは必至である。観光業界の景気が戻る気配は全くない。

**【企業動向・雇用関連】**

▶ 企業動向・雇用関連でも新型コロナウイルス感染再拡大による悪化を見込む声が大半を占める。

▲	化学工業 (営業担当)	・新型コロナウイルス感染者が増加傾向にあり、先行き不透明である。良くなる要素が今のところない。
▲	会計事務所 (職員)	・新型コロナウイルスの感染が再び拡大しており、特にサービス業などでは、既に予約のキャンセルなど消費活動が低迷し始めている。何かの対策をしない限り、この先感染拡大が続き景気も低迷する。
×	鉄鋼業 (経営者)	・製造業はこれから悪化が加速すると思われる。今年度の企業の収支見込みが明らかに悪くなると予想されているため、新規設備などの案件が大幅に落ち込むことに加え、公共工事も新型コロナウイルス対策予算へのシフトを受けて、増加は見込めないという話が出ている。
×	人材派遣会社 (営業担当)	・各企業が中途採用を抑制しており、有効求人倍率が下がり続けている。特に派遣の新規受入れはほとんどの企業がストップしており、しばらくは変わらないと見込んでいる。

## 景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
  - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
  - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
  - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
  - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
  - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
  - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1) (2) については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて D I を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、D I は 50 となるため、D I = 50 が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

### － ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。